ONKYO®

インテグレーテッドアンプ

A-905FX2

取扱説明書

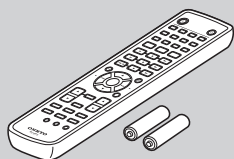
お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

- ■ 最先端デジタルアンプの利点を最大限に引き出す「VL Digital」技術
- ■ 直流結合型ディスクリートドライバー
- ■ 電源回路の実力を存分に引き出す銅バスプレート
- ■ 接点でのノイズ発生が少なく、リモコン操作も手動時のしっかりした感触も楽しめるモータードライブボリューム
- ■ トーン回路をバイパスすることで信号経路を短くし、よりピュアなサウンドを再生できるソースダイレクト・ポジション
- ■ プリアンプとの接続でパワーアンプ部のみ使用できるMAIN IN端子
- ■ 高音（TREBLE)/低音（BASS）に加え、超低域（SUPER BASS）の調整も装備した3バンドトーンコントロール
- ■ プロセッサー端子装備
- ■ 質感だけでなく制振性に優れたアルミフロントパネル
- ■ ケーブルとの接点での伝送ロスを最小限に抑えられる金メッキ端子（スピーカー端子およびCD、LINE端子）
- ■ 芯径4mmまでの極太ケーブルやバナナプラグも接続できるネジ式スピーカー端子
- ■ INTECシリーズのCDプレーヤー /MD、カセットテープデッキ/チューナーの主要な操作が可能なシステムコントロールリモコン付属

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

- ●リモコン（RC-614S）.....(1)
- ●乾電池（単三形、R6）.......(2)
- ●取扱説明書（本書）.............(1)
- ●保証書.................................(1)
- ●オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内...........(1)
- ●ユーザー登録カード...........(1)

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのもひとつの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

接続をする

音楽を鑑賞する

その他

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた
△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面から20cm以上、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■本機後面の電源コンセントには表示された供給電力を超える機器を接続しない

禁止

表示された供給電力以内でも、ヘアードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブンレンジなどの調理器具は接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠警告

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔から入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠注意

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■機器内部の点検について

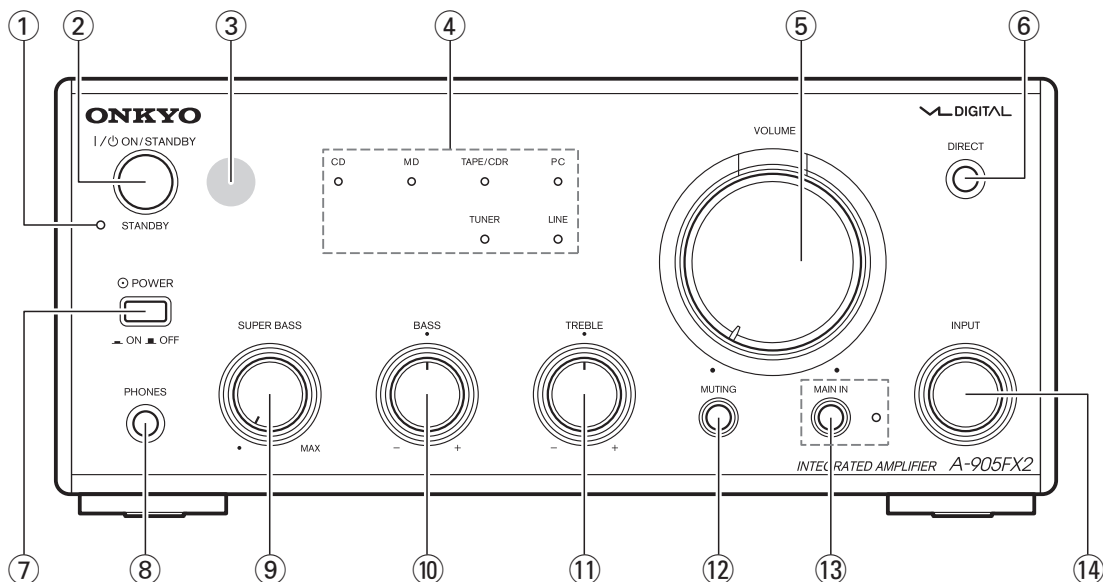
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　〕内のページに主な説明があります。

① **STANDBY（スタンバイ）インジケーター〔17〕**
スタンバイ状態のときに赤く点灯します。

② **ON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタン〔17〕**
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

③ **リモコン受光部〔10〕**
リモコンからの信号を受信します。

④ **INPUT（インプット）インジケーター〔18〕**
選ばれている機器のインジケーターが点灯します。

PCインジケーターは、後面パネルのPROCESSOR（プロセッサー）/PC切換スイッチの位置によって色が変わります。
スイッチについては、次ページをご覧ください。

緑：スイッチが「PC」側
オレンジ：スイッチが「PROCESSOR」側
消灯：スイッチが「PROCESSOR」側で、ダイレクト機能が「オン」になっている

⑤ **VOLUME（ボリューム）つまみ〔18〕**
音量を調整します。

⑥ **DIRECT（ダイレクト）ボタンとインジケーター〔19〕**
音質調整の効果を使わず、ピュアな音で再生します。
ダイレクト機能を使っているときは、インジケーターが点灯します。

⑦ **POWER（パワー）スイッチ〔17〕**
本機の主電源を入/切します。
主電源が入るとSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

⑧ **PHONES（フォーンズ）端子〔18〕**
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑨ **SUPER（スーパー） BASS（バス）つまみ〔19〕**
重低音の音量を調節します。

⑩ **BASS（バス）つまみ〔19〕**
低音の音量を調節します。

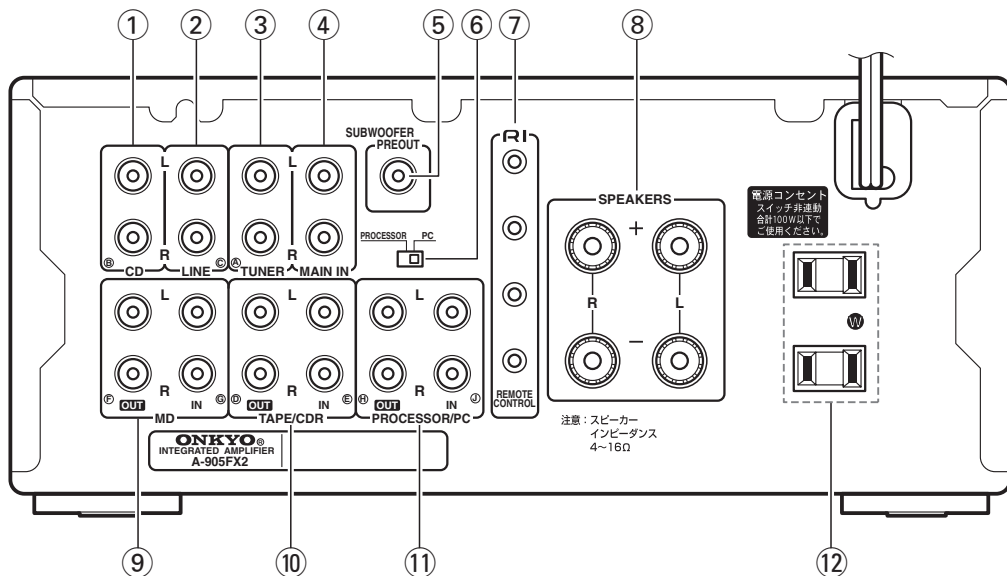
⑪ **TREBLE（トレブル）つまみ〔19〕**
高音の音量を調節します。

⑫ **MUTING（ミューティング）ボタン〔18〕**
一時的に音量を小さくします。
ミューティング中は、ボリュームインジケーターが点滅します。

⑬ **MAIN（メイン） IN（イン）ボタンとインジケーター〔20〕**
プリアンプを接続し、本機をパワーアンプとして使用するときに使います。3秒以上押してインジケーターが点灯すると、MAIN IN機能が働きます。

⑭ **INPUT（インプット）つまみ〔18〕**
再生する機器を選びます。

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① CD端子
オーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの音声出力端子と接続します。

② LINE（ライン）端子
オーディオ用ピンコードを使って、テレビやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーなど再生機器の音声出力端子と接続します。

③ TUNER（チューナー）端子
オーディオ用ピンコードを使って、チューナーを接続します。

④ MAIN IN（メイン イン）端子
本機をパワーアンプとして使用する場合、この端子にプリアンプを接続します。

ご注意

音量調節機能のない、CDプレーヤーなどは接続しないでください。最大音量で動作し､故障する可能性があります。

⑤ SUBWOOFER PREOUT（サブウーファー プリアウト）端子
アンプ内蔵サブウーファーを接続する端子です。

⑥ PROCESSOR/PC（プロセッサー）切換スイッチ
PROCESSOR/PC端子に接続した機器によって切り換えます。
グラフィックイコライザーを接続した場合は、「PROCESSOR」側にしておきます。その他の場合は「PC」側にしておきます。電源コードを接続する前に切り換えてください。

⑦ RI端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑧ SPEAKERS（スピーカー）端子
スピーカーを接続する端子です。

⑨ MD端子
オーディオ用ピンコードを使って、MDレコーダーなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑩ TAPE/CDR（テープ）端子
オーディオ用ピンコードを使って、カセットテープデッキやCDレコーダーなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑪ PROCESSOR/PC（プロセッサー）端子
オーディオ用ピンコードを使ってグラフィックイコライザー、PC用オーディオプロセッサーや録音機器などを接続します。

⑫ 電源コンセント
本機に接続する機器の電源プラグを接続します。

接続については、１１～16ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-614S）

〔　　〕内のページに主な説明があります。

ONボタン〔17〕
本機の電源を入れます。

数字ボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの選曲をします。
　10/0ボタン：10または0を選びます。
　＞10ボタン：2桁以上の曲を選びます。
　詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

FM/AMボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、FMまたはAMを選べます。

◀◀/▶▶ボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの早戻し/早送りをします。機種によってチューナーの場合は、周波数を選びます。

VOLUME▲/▼ボタン：
音量を調整します。
|◀◀/▶▶|（PRESET◀/▶）ボタン：
オンキヨー製CDやMD、CDRの前後の曲を選べます。押すたびに前または後に曲番がスキップします。
カセットテープデッキは巻き戻し、早送りをします。ラジオの選局にも使用します。
MUTINGボタン：
音量を一時的に小さくします。

TIMEボタン、ENTERボタン、▲/▼ボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、時刻やタイマー設定に使用します。

MEMORYボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの再生する曲順を記憶させます。

RANDOMボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRを順不同に再生します。

REPEATボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRをくり返し再生します。

EQ EFECTボタン
オンキヨー製グラフィックイコライザーのオン/スタンバイを切り換えます。

STANDBYボタン〔17〕
本機をスタンバイ状態にします。

GROUPボタン
オンキヨー製MDのグループを選択するときに使用します。

CLEARボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRで記憶した曲を取り消します。

オンキヨー製CD操作ボタン
❚❚：再生を一時停止します。
■：再生を停止します。
▶：再生を始めます。

オンキヨー製MD操作ボタン
❚❚：再生を一時停止します。
■：再生を停止します。
▶：再生を始めます。

オンキヨー製TAPE/CDR操作ボタン
（ダブルカセットデッキの場合は、デッキBのみ操作することができます。）
◀/❚❚：カセットテープの裏面再生、またはCDRの一時停止をします。
■：再生を停止します。
▶：再生を始めます。

SLEEPボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、スリープタイマーを設定します。

INPUT▲/▼ボタン〔18〕
本機で聞くソースを選びます。

DISPLAYボタン
オンキヨー製CDやMD、CDRの表示部の情報を切り換えます。

SCROLLボタン
オンキヨー製MDまたはCDRの文字を移動表示します。

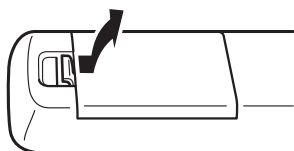
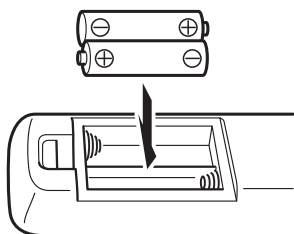
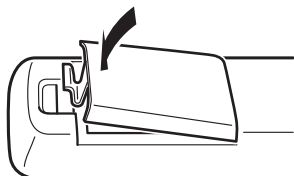
CLOCK CALLボタン
オンキヨー製チューナーを接続している場合、現在時刻を表示します。

EQ MODEボタン
オンキヨー製グラフィックイコライザーのエフェクトモードを切り換えます。

P MODEボタン
オンキヨー製MDまたはCDRの再生モードを選びます。

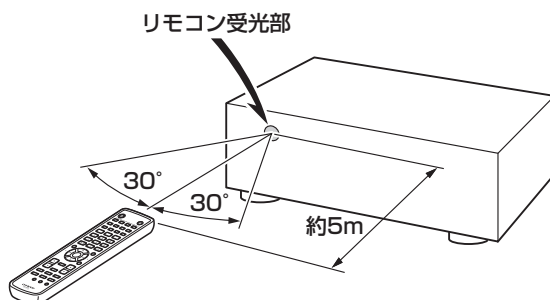
リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向に持ち上げてはずす

2. 中の極性表示にしたがって付属の乾電池2個をプラス⊕とマイナス⊖を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンは本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

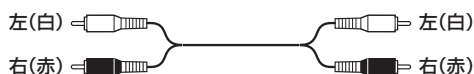
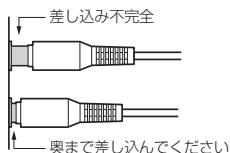
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光が当たらないようにしてください。リモコンが正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアのガラスに色が付いていると、リモコンが正常に動作しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。

接続をする

機器を接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。

オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 白いプラグを左チャンネル（Lの表示）、赤いプラグを右チャンネル（Rの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- スピーカーコードや電源コードをチューナーのアンテナに近づけると、影響を与える場合がありますので、できるだけ離してください。

システム機能について

INTEC205シリーズの組み合わせでRIケーブル、オーディオ用ピンコードを接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとはオンキヨーのシステム動作用ケーブルです。

INTEC205シリーズのCDプレーヤー、CDレコーダー、MDレコーダー、カセットテープデッキ、チューナーと接続する場合

システム接続のしかた
（INTEC205シリーズの接続）

本取扱説明書13ページをご覧ください。

オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

詳しくは本取扱説明書9ページをご覧ください。

タイマー操作
チューナーでタイマー時間を設定し、タイマー操作やタイマー録音ができます。

詳しくはチューナーの取扱説明書をご覧ください。

CDダビング
CDプレーヤーやCDレコーダー、MDレコーダー、カセットテープデッキの組み合わせで便利なCDダビングがワンタッチで行えます。

トラック指定CDダビング
再生トラックを指定してCDプレーヤーからMDレコーダーやCDレコーダーへの録音がワンタッチで行えます。

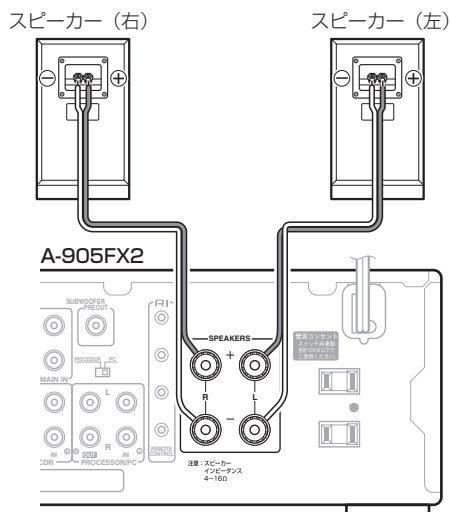
シンクロ録音
MDレコーダーやCDレコーダーまたはカセットテープデッキを録音待機状態にしておけばCDプレーヤーの再生操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくはCDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、カセットテープデッキの取扱説明書をご覧ください。

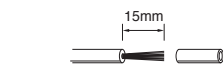
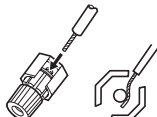
- 接続が正しくないと各機能は働きません。13～16ページを参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- オンキヨー製USBデジタルオーディオプロセッサー UE-205とは、組み合わせできません。
- 本機のMAIN（メイン） IN（イン）機能を使用しているときは、これらのシステム機能は働きません。
- 一部、旧INTEC205シリーズ製品との組み合わせで動作しない機能があります。新旧製品の連動動作の対応/非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

接続をする

スピーカーを接続する

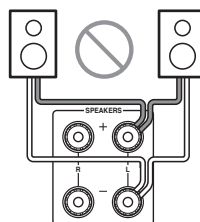
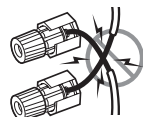
インピーダンスが4〜16Ω(オーム)のスピーカーをご使用ください。
4Ω未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。

スピーカーコードの接続

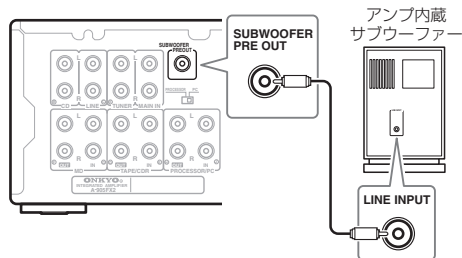
本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子、本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子を接続します。

① スピーカーコードの被覆を15mmカットする
② しん線の先端をしっかりとよじる
③ ねじをゆるめる
④ しん線を差し込む
⑤ ねじを締め付ける

バナナプラグの場合

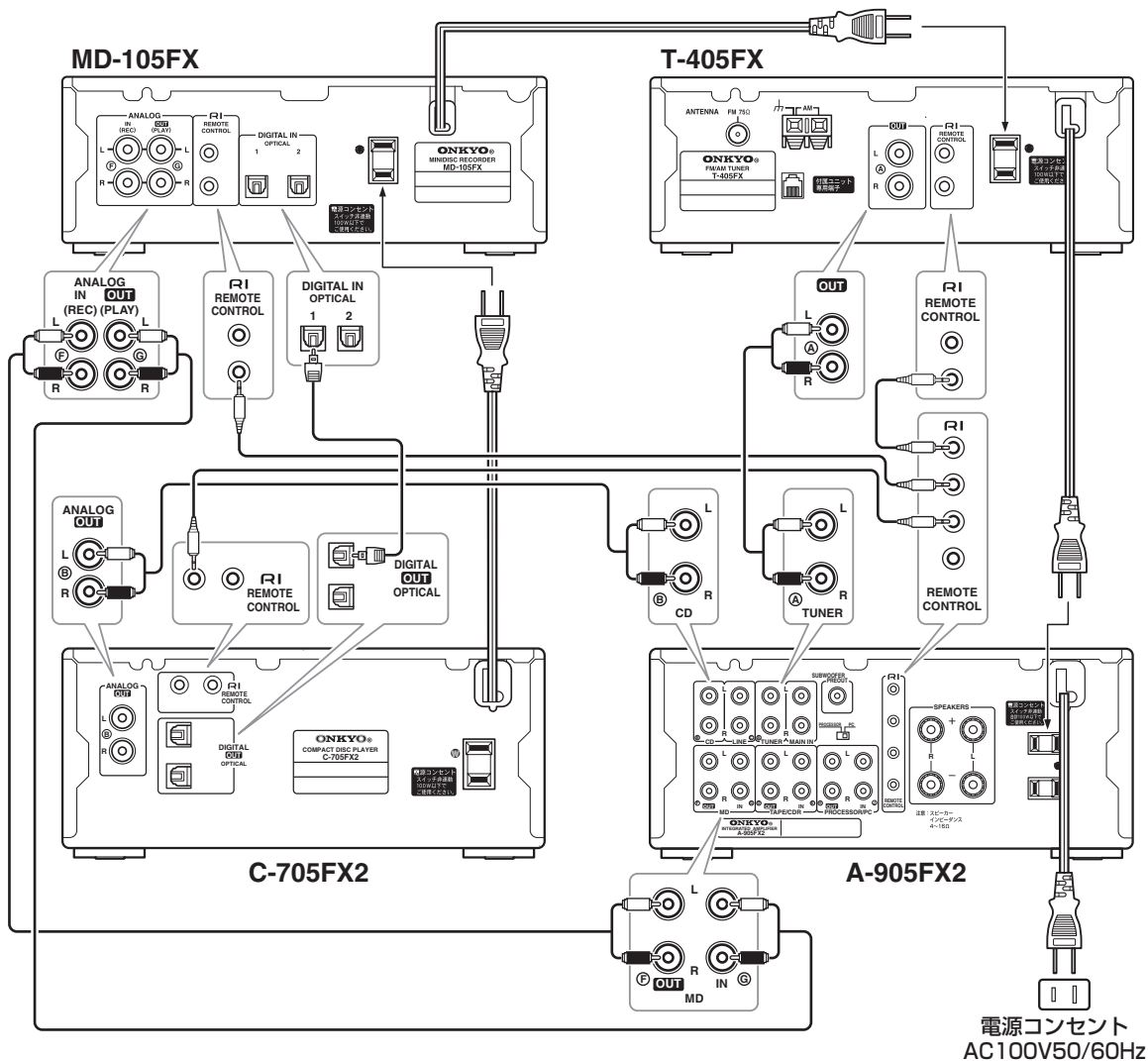
バナナプラグタイプのスピーカーコードを接続することもできます。その場合は、スピーカー端子のねじを締めてからプラグを差し込んでください。

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラス⊕とマイナス⊖を絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーをSUBWOOFER(サブウーファー) PREOUT(プリアウト)端子に接続します。

！ヒント

再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

INTEC205シリーズのC-705FX2、T-405FX、MD-105FXと接続する

RIケーブルの接続

- 本機にRIケーブルは付属していません。INTEC205シリーズの各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。
- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が２つ以上ある場合、それぞれの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

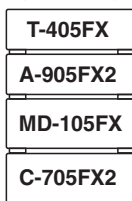
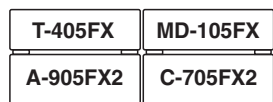
！ヒント

- 各機器の設置のしかたについては、右図のような方法があります。
- 各接続については、次ページからの説明をご覧ください。

（縦置の例）

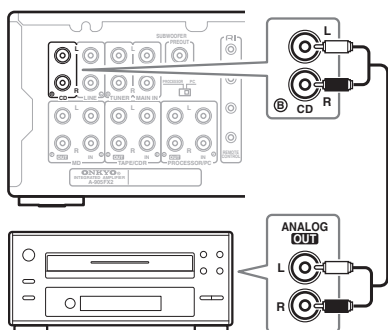
T-405FX
A-905FX2
MD-105FX
C-705FX2

（横置の例－前から見た場合－）

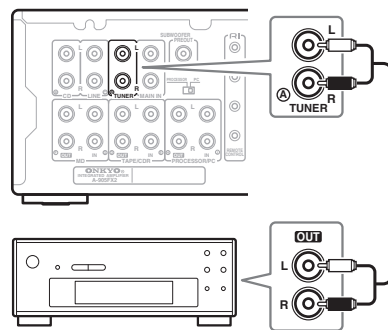
T-405FX	MD-105FX
A-905FX2	C-705FX2

オーディオ機器を接続する

CDプレーヤーを接続する

■オンキヨー製CDプレーヤーの場合
本機のCD端子Ⓑと CDプレーヤーのANALOG OUT端子Ⓑを接続します。

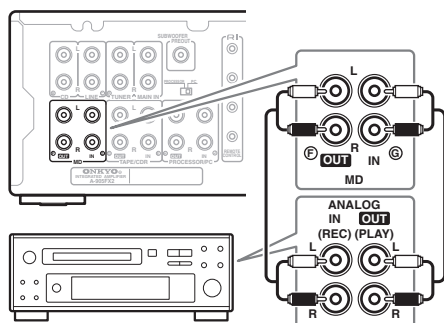
■その他のCDプレーヤーと接続する場合
本機のCD端子ⒷとCDプレーヤーのアナログ音声出力端子を接続します。

チューナーを接続する

■オンキヨー製チューナーの場合
本機のTUNER端子Ⓐとチューナーの OUT端子Ⓐを接続します。

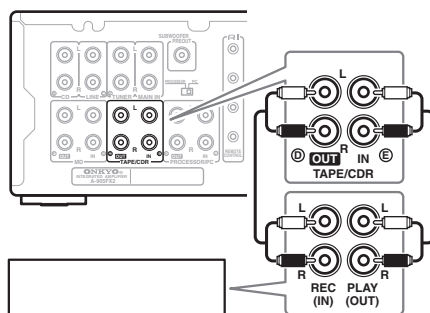
■その他のチューナーと接続する場合
本機のTUNER端子Ⓐとチューナーのアナログ音声出力端子を接続します。

MDレコーダーを接続する

■オンキヨー製MDレコーダーの場合
本機のMD OUT端子ⒻとMDレコーダーのANALOG IN端子Ⓕを接続します。

本機のMD IN端子ⒼとMDレコーダーのANALOG OUT端子Ⓖを接続します。

■その他のMDレコーダーと接続する場合
本機のMD OUT端子ⒻとMDレコーダーのアナログ音声入力端子を接続します。
本機のMD IN端子ⒼとMDレコーダーのアナログ音声出力端子を接続します。

カセットテープデッキ/CDレコーダーを接続する

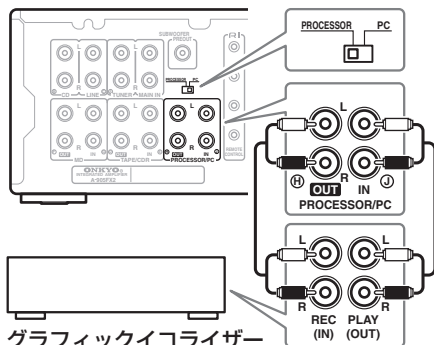
■オンキヨー製カセットテープデッキの場合
本機のTAPE/CDR OUT端子Ⓓとカセットテープデッキの IN端子Ⓓを接続します。

本機のTAPE/CDR IN端子Ⓔとカセットテープデッキの OUT端子Ⓔを接続します。

カセットテープデッキまたは
CDレコーダー

■CDレコーダーやその他のカセットテープデッキと接続する場合
本機のTAPE/CDR OUT端子Ⓓとカセットテープデッキまたは CDレコーダーのアナログ音声入力端子を接続します。

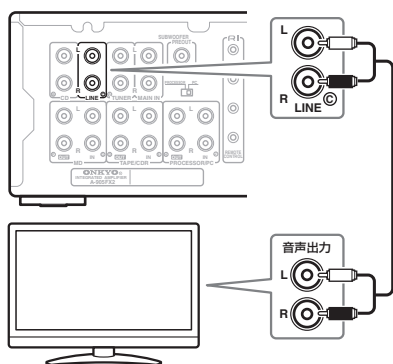
本機のTAPE/CDR IN端子Ⓔとカセットテープデッキまたは CDレコーダーのアナログ音声出力端子を接続します。

グラフィックイコライザーや録音機器を接続する

本機のPROCESSOR/PC OUT端子Ⓗと、グラフィックイコライザーまたは録音機器の音声入力端子を接続します。
本機のPROCESSOR/PC IN端子Ⓙと、グラフィックイコライザーまたは録音機器の音声出力端子を接続します。

ご注意

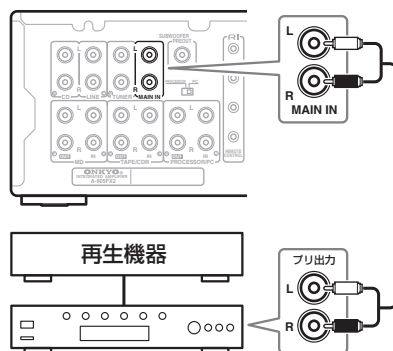
この端子にグラフィックイコライザーを接続した場合は、電源コードを接続する前にPROCESSOR/PC切換スイッチを「PROCESSOR」側にしてください。その他の機器の場合は「PC」側にしてください。その他の機器を接続していて「PROCESSOR」側になっていると、音が出ません。

テレビなどの再生機器を接続する

本機のLINE端子Ⓒと接続する機器のアナログ音声出力端子を接続します。

！ヒント

テレビに音声出力端子がない場合は、ビデオデッキの音声出力端子を本機と接続すると、ビデオデッキに内蔵されたテレビチューナーでテレビの音をお楽しみいただけます。

プリアンプを接続する

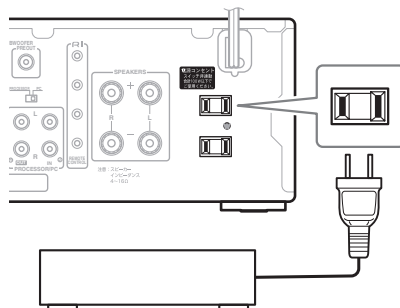
プリアンプと接続すると本機をパワーアンプとして使用することができます。本機のMAIN IN端子とプリアンプのプリ出力端子を接続します。スピーカーは本機に、再生機器はプリアンプに接続します。

ご注意

- 音質調節機能のない機器は接続しないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。
- 本機をパワーアンプとして使用する場合は、前面パネルのMAIN INボタンを3秒以上押して、インジケーターを点灯させる必要があります。(☞20ページ)
- 本機をパワーアンプとして使用しているときは、以下の操作や機能は働きません。可能な機能は、接続したプリアンプ側で操作してください。
  - 音量調整、入力切り換え、ミューティング機能、リモコン操作、RI連動動作、TONE/DIRECT機能、録音、サブウーファーからの出力

他の機器の電源プラグを本機につなぐ

本機後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを接続することができます。
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他の機器の電源コードや電源プラグに目印がある場合は、目印側を本機の電源コンセントのⓦ側に合わせてください。他の機器の電源コードに目印がない場合は、どちらを接続してもかまいません。

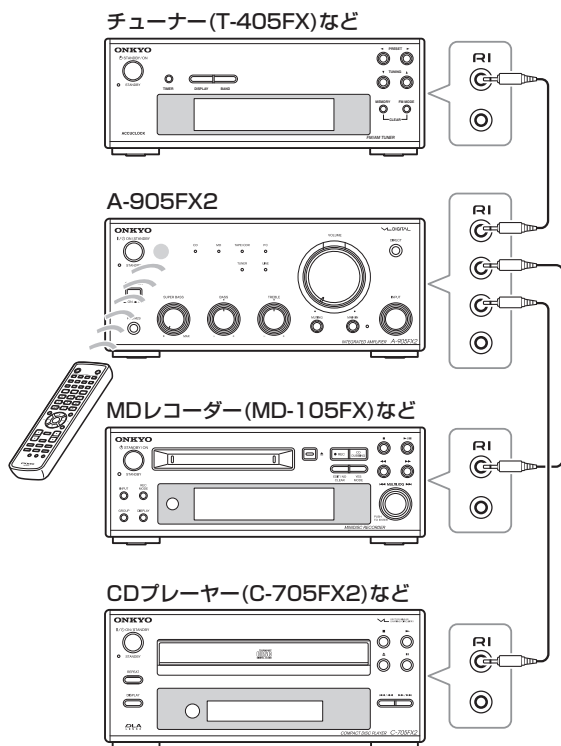
ご注意

本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。

接続をする

RIケーブルを接続する

RI端子付オンキヨー製品と組み合わせた場合、システム機能を使うことができます。（本機にRIケーブルは付属していません。INTEC205シリーズの各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

- 操作は本機に付属しているリモコンを使用します。本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

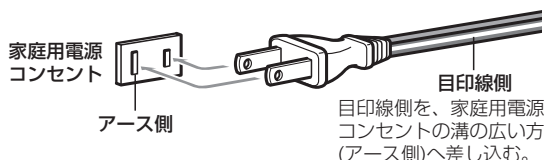
（例）

- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つ以上ある場合、それぞれの端子の働きは同じです。いずれにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- オンキヨー製のカセットテープデッキとCDレコーダーの両方を接続する場合、システム機能が働くのはTAPE/CDR端子に接続した機器のみです。TAPE/CDR端子に接続していない方のカセットテープデッキまたはCDレコーダーのRIケーブルは接続しないでください。
- MDレコーダーを2台など、同じカテゴリーのオンキヨー製品を複数接続する場合、システム機能が働くのは1台だけです。1台だけRIケーブルを接続し、それ以外はRIケーブルを接続しないでください。
- 本機はアンプ製品ですので、他のアンプのRI端子と接続しても連動しません。

電源コードを接続する

電源プラグを接続する前に

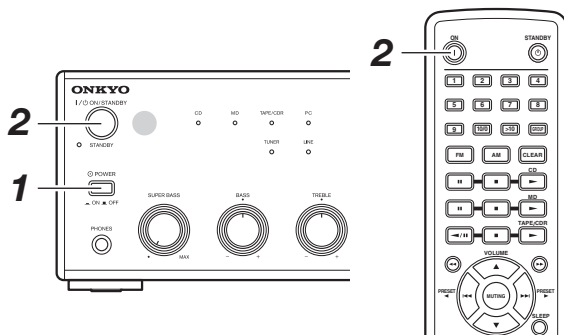
すべての接続が完了していることを確認してください。

また、PROCESSOR（プロセッサー）/PC端子にグラフィックイコライザーを接続している場合は、後面パネルにあるPROCESSOR/PC切換スイッチが「PROCESSOR」側になっていることを確認してください。その他の場合は、「PC」側にしておきます。

本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

より良い音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

音楽を鑑賞する

電源を入れる

本体のPOWERスイッチを押す

STANDBYインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

！ヒント

お買い上げ時には、本機のPOWERスイッチは「ON」の状態になっていますので、電源プラグをコンセントに差し込むとスタンバイ状態となります。

I/⏻ ON/STANDBY

STANDBY

本体

または

リモコン

本機のON/STANDBYボタン、またはリモコンのONボタンを押す

STANDBYインジケーターが消灯します。

ご注意

電気回路が安定するまで約5秒かかります。その間は音声を出力しません。

スタンバイ状態に戻すには

本機のON/STANDBYボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。

システム全体の電源を入れるには

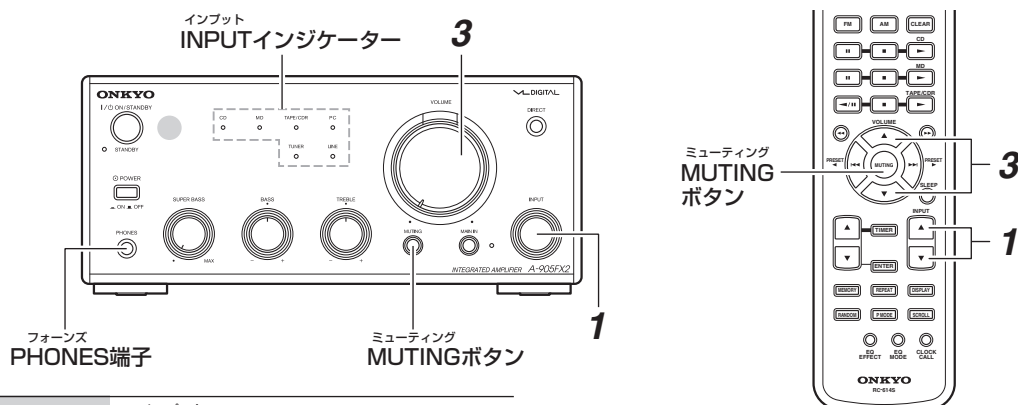
リモコンのONボタンをもう一度押します。RI接続したすべてのオンキヨー機器も電源が入ります。

一度にシステム全体の電源が入るようにするには

電源が入った状態でリモコンのONボタンを16秒以上押します。

スタンバイ状態になり、次からは本体のON/STANDBYボタンやリモコンのONボタンを一度押すと、システム全体の電源が入ります。

- 元に戻すには、リセットをします。（☞22ページ）

接続した機器を再生する

1 INPUTつまみを回して、再生する機器を選ぶ

CD：CD端子に接続した機器
MD：MD端子に接続した機器
TAPE/CDR*1：TAPE/CDR端子に接続した機器
PC*2：PROCESSOR/PC端子に接続した機器
TUNER：TUNER端子に接続した機器
LINE：LINE端子に接続した機器

リモコンでは、INPUT▲/▼ボタンで選べます。

＊1 オンキヨー製CDレコーダーを接続した場合は、CDレコーダーを判別するため、初めて選んだときのみインジケーターが約8秒間点滅します。

＊2 後面パネルのPROSESSOR/PC切換スイッチが「PROCESSOR」側になっているときは、選択できません。

2 選んだ機器の再生を始める

3 音量を調節する

本体

または

リモコン

本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調節します。

- つまみは右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。

一時的に音を小さくする

本体

または

リモコン

リモコンまたは本体のMUTINGボタンを押す

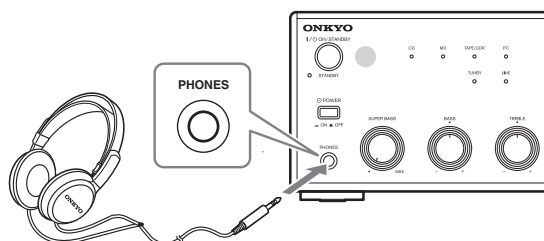
ボリュームインジケーターが点滅します。

解除するには

もう一度MUTINGボタンを押します。

- リモコンで音量を変えたり、本体のON/STANDBYボタンを押した場合にも解除されます。

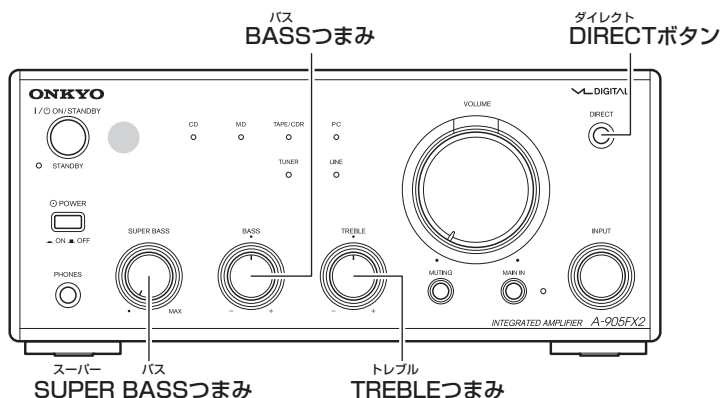
ご注意

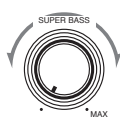
MAIN IN機能を使って、本機をパワーアンプとして使用しているときは、ミューティング機能は働きません。

ヘッドホンで聞く

PHONES端子にヘッドホンのステレオミニプラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- MAIN IN機能を使用しているときは、ヘッドホンで聞くことはできません。

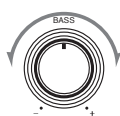
音質を調整する

● MAIN IN機能を使っているときは、音質調整の効果はありません。また、DIRECT機能は働きません。
● 後面パネルのPROCESSOR/PC切換スイッチが「PROCESSOR」側になっているときは、グラフィックイコライザーの音響効果を優先するため、本機での音質調整の効果はありません。

重低音を調整する

DIRECT機能が「オン」のときは、効果がありません。

SUPER BASSつまみを回す

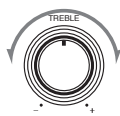
SUPER BASSつまみを回して調整します。
右に回すと重低音が強調されます。通常は一番左の位置に合わせておきます。

低音を調整する

DIRECT機能が「オン」のときは、効果がありません。

BASSつまみを回す

BASSつまみを回して調整します。
右に回すと低音が強調されます。通常は中央の位置に合わせておきます。

高音を調整する

DIRECT機能が「オン」のときは、効果がありません。

TREBLEつまみを回す

TREBLEつまみを回して調整します。
右に回すと高音が強調されます。通常は中央の位置に合わせておきます。

DIRECT機能を使う

DIRECT機能を使って、音質調整の効果をかけずにピュアな音で聞くことができます。

DIRECTボタンを押す

押すたびに「オン」と「オフ」が切り換わります。

オン： 音質調整は働きません。
ピュアな音で聞くことができます。
インジケーターが点灯します。

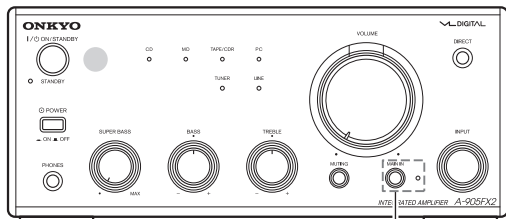
オフ： 音質調整の効果が働きます。
インジケーターが消灯します。

グラフィックイコライザーを使う

PROCESSOR/PC端子に接続し、電源コードを接続する前にPROCESSOR/PC切換スイッチを「PROCESSOR」側にします。
電源を入れたときにDIRECT機能が「オン」になっている場合は、DIRECTボタンを押して「オフ」にしてください。
PCインジケーターがオレンジ色に点灯し、本機に接続しただどの機器を再生してもイコライザーを経由するので、グラフィックイコライザーの音響効果が楽しめます。

MAIN IN機能を使っているとき、DIRECT機能が「オン」のときは、グラフィックイコライザーの効果はありません。

MAIN IN 機能を使う（本機をパワーアンプとして使う）

プリアンプを接続し、本機をパワーアンプとして使用することができます。

MAIN INボタンとインジケーター

MAIN INボタンを3秒以上押して、インジケーターの色を変える

緑：プリアンプを接続した場合、本機をパワーアンプとして使用することができます。プリアンプの入力端子に接続した機器の音声を出力します。

消灯：MAIN IN機能を使用しません。

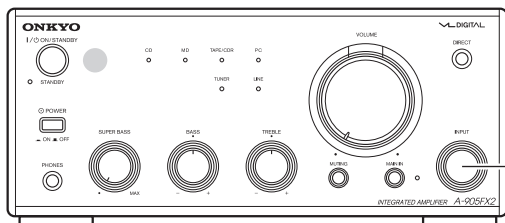
！ヒント

電源を入れるときは、プリアンプの電源を先に入れ、次に本機の電源を入れてください。

ご注意

- MAIN IN機能を使用しているとき、本機はパワーアンプとして働きます。本機のVOLUMEつまみやINPUTつまみを回しても効果はありません。MAIN IN機能を解除したとき、INPUTつまみで選んだ機器の音が出ますので、特にVOLUMEつまみの位置にご注意ください。
- MAIN IN機能を使用しているとき、本機はパワーアンプとして働きますので、以下の操作や機能は働きません。可能な機能は、接続したプリアンプ側で操作してください。
  - 音量調整、入力切り換え、ミューティング機能、リモコン操作、RI連動動作、DIRECT機能、録音、サブウーファーからの出力
- MAIN IN端子に音量調節機能のない、CDプレーヤーなどを接続して、MAIN IN機能を使わないでください。最大音量で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。

録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- 音質調整効果は録音されません。また、グラフィックイコライザーの効果も録音されません。
- MAIN IN 機能を使用しているときは、録音できません。

1 録音する機器（再生側）を選ぶ

INPUT つまみを回して、録音する機器（再生側）を選びます。

2 録音する機器（録音側）の準備をする

録音する機器を録音待機状態にします。

- 録音レベルの調整は、録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音を始める

手順 ***1*** で選んだ再生機器を再生します。

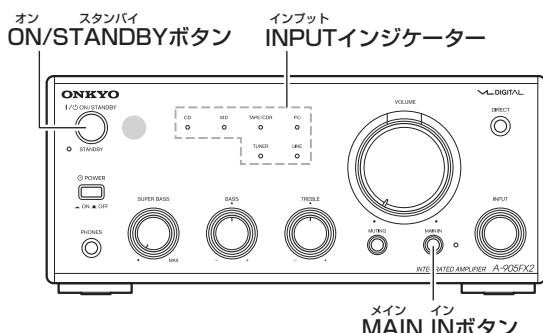
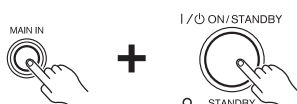
ご注意

録音中に入力を切り換えないでください。切り換えた入力の音が録音されます。

困ったときは

まず下記の内容を確認してみてください。接続した他の機器に原因がある場合もありますので、他の機器の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

！ヒント　修理を依頼される前に

すべての設定をお買い上げ時に戻す

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態でMAIN INボタンを押したまま、ON/STANDBYボタンを押してください。
INPUTインジケーターがすべて点灯してから、スタンバイ状態になります。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、10秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。
- 初期設定では、本体のON/STANDBYボタンを押してもシステム全体の電源は入りません。
  リモコンのONボタンをもう一度押すか、17ページで設定してください。

電源が切れ、STANDBYインジケーターが赤色に点滅している

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音　声

音声が出力されない

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの⊕/⊖は正しく接続されているか、スピーカーコードのしん線部が本機のスピーカー端子の金属部に確実に固定されているか確認してください。〔12ページ〕
- 入力が正しく選択されているか確認してください。〔18ページ〕
- MUTING機能が働いているときは、解除してください。〔18ページ〕
- レコードプレーヤーの場合、フォノイコライザーが内蔵かお確かめください。MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり、損傷していないか確認してください。
- PROCESSOR/PC端子に何も接続されていないときは、切換スイッチを「PC」側にしてください。〔8ページ〕
- 本機をパワーアンプとして使用しているとき（MAIN INインジケーターが点灯しているとき）は、プリアンプに接続した機器の音声が出力されます。本機に接続した機器の音声を出力するには、MAIN IN機能をOFFにしてください。〔20ページ〕

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが他機器の影響を受けている可能性があります。接続コードの位置を変えてみてください。

音質調整の効果がない

- DIRECTインジケーターが点灯しているときはダイレクトモードとなり、音質調整の効果は出ません。もう一度ボタンを押して解除してください。〔19ページ〕
- 後面パネルのPROCESSOR/PC切換スイッチがPROCESSOR側になっていると、本機の音質調整は働きません。〔19ページ〕

困ったときは

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（⊕/⊖）が正しく入っているか確認してください。〔10 ページ〕
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。〔10ページ〕
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっていると、リモコン操作ができない場合があります。〔10ページ〕
- オーディオラックのドアのガラスに色が付いていると、正常に機能しない場合があります。〔10ページ〕
- MAIN IN機能が働いているときは、リモコン操作はできません。〔20ページ〕

録　音

録音ができない

- MAIN IN端子に接続した機器は録音できません。また、MAIN IN機能が働いているときも録音できません。
- 本機にオンキヨー製CDプレーヤーとDVDプレーヤーの両方を接続している場合、CDダビングに使わない機器は電源をスタンバイ状態にしてください。

その他

他機の操作ができない

- オンキヨー製品とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルの接続だけでは連動しません。）
- MAIN IN機能が働いているときはRI連動動作はできません。〔20ページ〕

音量調整ができない

- MAIN IN機能が働いているときは音量調整はできません。接続したプリアンプ側で操作してください。

ミューティング機能が働かない

- MAIN IN機能が働いているときはミューティング機能は働きません。接続したプリアンプ側で操作してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは電源プラグを抜いて、約10秒以上放置してから電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

主な仕様

電源・電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	95W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	205(幅)×91(高さ)×299(奥行)mm
質量	4kg
定格出力	60W+60W (4Ω 1kHz、全高調波歪率0.5%以下、1ch駆動時)
実用最大出力	80W+80W(4Ω JEITA)
全高調波歪率	0.08%(1kHz、1W出力時)
ダンピングファクター	35(フロント、8Ω)
入力感度/インピーダンス	200mV/50kΩ(LINE)
出力電圧/インピーダンス	200mV/2.2kΩ(REC OUT)
周波数特性	10Hz~60kHz/+1dB −3dB
トーンコントロール最大変化量	±8dB、100Hz(BASS) ±8dB、10kHz(TREBLE) +10dB、80Hz(SUPER BASS)
SN比	100dB(CD、IHF-A)
スピーカー適応インピーダンス	4Ω~16Ω
音声入力(アナログ)	CD、LINE、TUNER、MAIN IN、MD、TAPE/CDR、PROCESSOR/PC
音声出力(アナログ)	MD、TAPE/CDR、PROCESSOR/PC
サブウーファープリ	1
スピーカー	1(L/R)
ヘッドホン	1

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 A-905FX2
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口･修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　（　　）
メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　10：00〜18：00
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Printed in Japan
G0901-1

SN 29344919